

様式3-2：省令様式第22の14（第34条の4関係）第2表

石油輸入実績（石油製品輸入実績（保税輸入品を除く））

（6年）数量の入力は0以上の整数にてご記入ください。1月2日まで

報告対象となる期間を記入してください。（入力プログラムを使用する際には、最初の基本情報画面で対象年月日を入力することにより自動的に表示されます。）

検尺完了日			陸揚地	製品名	輸入量	船舶名称
年	月	日	（企業・事業所）			
（記入例）						
2024	10	31	XXX001	350	6,018	F050
企業名			報告者の職名及び氏名	供給部 経済 太郎		TEL 03-1234-5678
○△石油（株） XXX			報告対象年月日	令和6年11月2日		

陸揚地、製品名、船舶名称はコードを入力してください。各種コードは、資料1-2「石油情報報告緊急時コード表」をご参照下さい。

年は西暦4桁で入力してください。

前3桁が企業コード、後3桁が事業所コードになります。需要家の基地へ直接輸入する場合は、「需要家納め」のコード(100001)を記入。

「軽油」の場合。
 ガソリン=310
 ナフサ =320
 ジェット燃料油=330
 灯油 =340
 軽油 =350
 A重油 =360
 B・C重油=380
 P.P.P.B =451
 B.B =452

輸入量の単位は、燃料油が「kl」、液化石油ガスが「トン」です。

コード表の記入例に従い記載してください。
 船籍コード(外国船(F)、日本船(J)、便宜置籍船(C))の後にDWTを百の単位で四捨五入し「千DWT」単位で記入。
 記入例は、「外国船(F)」の50,438DWTの場合。

「2024年10月31日」の場合

報告内容のデータを取得した時点(週次であれば前週土曜日の日付)を記載してください。

企業名やTEL、作成者の氏名等は忘れずに記載してください。

企業名の後に、企業コードを記載してください。

様式4-2：省令様式第22の15（第34条の4関係）第2表

石油輸出実績（石油製品輸出実績（保税輸出品を除く））

数量の入力は0以上の整数にてご記入ください。
（64年1月2日まで）

報告対象となる期間を記入してください。（入力プログラムを使用する際には、最初の基本情報画面で対象年月日を入力することにより自動的に表示されます。）

輸 出 日			積 出 地 (企業・事業所)	製 品 名	輸 出 量	輸 出 先
年	月	日				
(記入例)						
2024	10	31	XXX001	350	6,018	103
企業名			作成者の職名及び氏名		TEL	
○△石油(株) XXX			報告対象年月日		令和6年11月2日	
企業名			作成者の職名及び氏名		TEL	
○△石油(株) XXX			報告対象年月日		令和6年11月2日	

積出地、製品名、輸出先はコードを入力してください。各種コードは、資料1-2「石油情報報告緊急時コード表」をご参照下さい。

年は西暦4桁で入力してください。

前3桁が企業コード、後3桁が事業所コードになります。

「軽油」の場合。
ガソリン=310
ナフサ =320
ジェット燃料油=330
灯油 =340
軽油 =350
A重油 =360
B・C重油=380
P.P.P.B =451
B.B =452

輸出量単位は、燃料油が「kl」、液化石油ガスが「トン」です。

「大韓民国」の場合

「2024年10月31日」の場合

企業名の後に、企業コードを記載してください。

報告内容のデータを取得した時点(週次であれば前週土曜日の日付)を記載してください。

企業名やTEL、作成者の氏名等は忘れずに記載してください。

様式5：省令様式第22の16（第34条の4関係）

製油所原油処理・生産・受入・払出量

合計欄：調査票取込後、システムにて自動計算されます。

（6年） 数量の入力は0以上の整数にてご記入ください。1月2日まで

報告対象となる期間を記入してください。（入力プログラムを使用する際には、最初の基本情報画面で対象年月日を入力することにより自動的に表示されます。）

（単位）原油・燃料油：kl、石油ガス：t

製油所名		原油 (kl)	石油製品					A 重油 (kl)	B・C 重油 (kl)	燃料油計 (kl)	石油ガス	
			処理量	生産量	受入量	払出量	生産量				受入量	プロパン(t)
○△製油所	処理量	104,158										
	生産量		26,040	5,206	4,988	10,516	20,931	10,332	15,711	93,724	2,864	1,644
	受入量		0						0	0	0	0
	払出量					1			1,466			
(記入例)	処理量											
	生産量											
	受入量											
	払出量											

報告者の所有する製油所について、その名称を記入してください。

製油所名の後に、企業・事業所コードを記載してください。前3桁が企業コード、後3桁が事業所(製油所)コードとなります。

石油製品需給動態統計調査の消費に相当する数量を入力してください。

経済産業省生産動態統計調査の生産に相当する数量から自家消費分を除いた数量を入力してください。また、自家消費分が大きく、結果として生産がマイナスとなる場合が生じた際は、資源・燃料部政策課(03-3501-2773)までご連絡ください。

入力単位は、「kl」です。

入力単位は、「トン」です。

払い出した数量を入力してください(輸出分は除く)。

他の製油所等から受け入れた数量を入力してください(輸入分は除く)。

企業名やTEL、作成者の氏名等は忘れずに記載してください。

報告内容のデータを取得した時点(週次であれば前週土曜日の日付)を記載してください。

※生産量は、自家消費分を除いた数量

企業名の後に、企業コードを記載してください。

企業名	作成者の職名及び氏名	需給部 経済 太	TEL 03-1234-5678
○△石油(株) XXX	報告対象年月日	令和 6 年 1 1 月 2 日	

様式10(第34条の4関係)

原油処理・石油在庫量(日次)

本様式における在庫報告は、占有権ベースとなりますので、ご注意ください。

(令和6年11月6日時点)

本年度の訓練では原油処理量の記入は不要です。

数量の入力は0以上の整数にてご記入ください。

合計欄:調査票取込後、システムにて自動計算されます。

(単位:kl、液化石油ガス:t)

事業所名	原油処理 コード	原油在庫	製品														合計	
			ガソリン	ナフサ	ジェット燃料油	灯油	軽油	A重油	B・C重油	燃料油計	液化石油ガス	粗ガソリン	粗灯油	粗軽油	粗重油			
(記)	〇△製油所	XXX002	311,598	25,194	5,016	4,166	2,415	20,016	13,319	13,991	84,117	2,513	916	28,338	15,789	16,552	11,996	72,675

在庫管理専門の会社等、非備蓄義務者に預けている在庫については、その非備蓄義務者に石油を預けている他の備蓄義務者間や備蓄義務者-非備蓄義務者間で在庫の重複報告がないよう調整して頂き、非備蓄義務者の保有する在庫についても占有権で報告が行われるよう、周知してください。

本報告においては、所有する貯油設備(事業所毎)の能力が、原油用+燃料油用+半製品用の合計で5,000kl未満(石油ガス用においては、合計で5,000t未満)の場合は、報告を行う必要がないものとします。
また、貯油設備として同一敷地内に「原油用、燃料油用又は半製品用」及び「石油ガス用」の両設備を持っている場合は、「原油用、燃料油用又は半製品用」又は「石油ガス用」の各々について、上述の基準に照らしてご判断ください。

報告者の所有する製油所について、その名称を記入してください。

入力単位は、「kl」です。

入力単位は、「トン」です。

入力単位は、「kl」です。

国家備蓄原油は含めないでください。

報告内容のデータを取得した時点を記載してください。

企業・事業所コードを記載してください。前3桁が企業コード、後3桁が事業所コードとなります。

企業名やコード、TEL、作成者の氏名等は忘れずに記載してください。

企業名	コード	作成者の職名及び氏名	需給部 経済 太郎	TEL 03-1234-5678
〇△石油(株)	XXX	報告対象年月日	令和6年11月6日	